富士山麓病院介護医療院新聞
富士山麓クリニック
第174号

どのカードを合わせると写真が完成するのかな？

《症例検討・121》

配偶者や子供たちの考え違い

院長　清水　允熙

Ｉさんは二年ほど前から「私どうにかなったのかしら」と独りごとのように言うようになりました。子供たちが「どうしたの」と聞くと「何だか変なのよ」と不安そうな顔つきです。イライラしているような時もありました。一年半ほど前からは物忘れも目立つようになりました。最近は夫に対して反抗的・攻撃的な態度が強く、夫を叩こうとする時もあります。夫の配慮を受け入れる精神的余裕はまったくなく、夫の顔を見ただけで不穏な状態になってしまいます。

一日中、夫婦二人だけの生活で、このような状態が続いています。「どうしたらよいのでしょうか」との家族からの相談でした。

診察室でのＩさんは、言葉も少ないうえ、話し方には自信とか信念みたいなものがなく、楽しさや喜びをどこかに置き忘れてきたような雰囲気です。交差点で信号が青になっても、歩き出さずに立ち尽くしている人のような印象を受けます。

生活歴

Ｉさんは、夫と二人暮らしで、二人の子供はそれぞれ独立して別居しています。付き添ってきた友人の話では、以下のような説明もありました。

「Ｉさんのご主人は奥さん思いです。若い頃から大変なことはご主人が一手に引き受け、Ｉさんに苦労や心配をかけたことはほとんどなかったようです。契約や主だった買い物は全部ご主人がするため、いろいろな書類や通帳・印鑑などはすべてご主人が管理していたようです。Ｉさんは金銭の管理もしたことがないほどで、箱入り娘のような人生を過ごしてきたみたいです。

また、ご主人が綺麗好きのため、Ｉさんが掃除した後をもう一度ご主人が掃除し直すようなこともあったとのことです。それで、かなり前からご主人が掃除してしまう習慣になっていたとのことです。

炊事も同様で、要するに何事もご主人がしてしまうようになっていたみたいです」とのことでした。

メモ

この症例に見るＩさんのような女性は、その生活の内容に夫が干渉する程度に差はありますが、数は少なくありません。そのような女性の場合、配偶者である夫には以下のような傾向が見られます。

○必要以上に口うるさい。細かい。几帳面。厳格である。

○重要なことは自分で決めてしまう。ワンマンである。

○優しさが自分勝手な独りよがりである。

○妻から自由を奪っていることに気付かない。

○頑固で変人である。自分の考えを変えない。友人が少ない。

○現金、預金通帳、印鑑などを妻に任せられない性格である。

○毎日、その日の生活費だけしか妻に渡さない。

○妻を放りっぱなしである。

などです。このような夫の性格は、妻を認知症にさせやすいと言えます。

したがって、妻を認知症にさせない方法は次のようになります。

◎もっと妻を尊敬し、信頼すること。

◎もっと家庭から妻を解放して、自由で楽しくさせること。

◎おかねを使わせてあげること。交際費を認め、友人との交際を勧めること。お洒落をさせること。

◎そのために夫は留守番をし、食事の準備をするぐらいのことをいとわぬこと。

最近の若い夫なら、これらを実践していることでしょう。

さて、この症例に見るＩさんの夫のような人に限って、妻の記憶力が低下して忘れっぽくなり、ミスが多くなると、あれやこれやと細かく、くどく注意し、時には叱責を繰り返し、妻の認知症の進行の速度を早めさせています。

夫が何もかもしてしまい、

妻を「いてもいなくてもよいような存在」にしてしまっては、夫が健在であっても妻が認知症に陥ってしまう可能性が大であることを知らなくてはなりません。

次は別の症例での一コマです。

ある時、かなり認知症状が進んでいる母親を連れて、子供達が相談に来ました。話をしながら失礼のないようなタイミングを選んで、次のような質問をさせていただきました。

「3＋4はいくつですか？」

その母親はしばらく考えていましたが、解答を見つけることができませんでした。

「そんな難しいことはできません」と答え、体裁の悪い思いをしておられる様子でした。そのときそんな母親を見て息子さんが助け舟を出しました。

「母さん、3＋4わかるじゃない」

「え、おまえ…」母親は横にいる息子の顔を見ました。息子は言いました。

「ほら母さん、3円と4円でいくらだっけ」

「え、3円と4円…。それはお前7円だよ」

決まっているじゃないのと言わんばかりの母親の顔でした。

そうです。3＋4が分らない人が3円＋4円＝7円とわかったのです。この場合の「円」は混乱状態の母親に何と優しい介添えをしてあげたことでしょう。私たちが靴を履くときの靴ベラのような働きをこの「円」はしてくれたのです。

前記のIさんの夫は、この「円」と同じような優しい配慮をIさんにしてあげていたでしょうか。

炊事・掃除・買い物などをしてあげることは、Iさんが将来の認知症を避けるための配慮として、行われていたでしょうか。

私たちは、お年寄りと話をするとき、相手のお年寄りにこの「円」のような配慮を持って接してあげたいものです。この配慮がお年寄りを認知症から救い出す方法だからです。

富士山麓病院介護医療院の『ホームページ』ご案内

当施設は認知症高齢者の症状を「改善」「進行を遅らせる」「進行の停止」そしてご家族の精神的負担を軽減することを目標とし日々努めております。施設のHPでは認知症に対する各種対応法やケアについて記載してあります。
ぜひ一度ご覧になってみてください。

https : // ninchisyo. jp

3階療養棟を紹介します！

介護職員　殿内 三奈子

私は、3階療養棟、介護課長の殿内三奈子と申します。こちらに勤務してから十三年が経ちました。以前富士山麓病院新聞に執筆した際に、私の紹介やなぜ介護の道に進んだのか、少し書かせていただいたので、今回は私が所属している「3階療養棟」を紹介させていただきます。

令和六年度、3階療養棟の目標は『いたわりと思いやりのあるケアで、利用者様との信頼関係を築く』を掲げ、看護師十三名、ケアサポーター十一名、環境課四名の計二十八名でこの目標を達成するため、日々利用者様と接しています。

私たち看護・介護が小さな気づきを共有し、利用者様に対して統一したケアを提供できるように、何か問題点等があったらすぐに話し合い、その問題点を解決できるように努めています。

＊

私たち職員の年齢は看護師・介護士共に三十代から七十代までと幅広く、若さ溢れる賑やかな職場ですが、ベテランさんのケア・対応方法を日々学べ、とても明るく楽しい元気な職員が集まっている階だと思います。

認知症の方に対する対応も人それぞれで、利用者様の笑顔を上手に引き出してくれる職員や、この職員でないとお風呂に入らないという利用者様もいらっしゃいました。私たちが常に気をつけていることは、変化のある一日一日を楽しく過ごしていただくことです。

表情が硬い方には毎日の声掛けでにっこりしながら話しかけ、言葉が出にくい方には「声を聴かせてください♡」と笑顔で優しく声掛けしています。しばらくして、その利用者様が挨拶時ににっこり笑顔で「おはよう」と声を出してくださり、とても嬉しく思いました。

＊

利用者様も様々な症状の方が共同で生活されているので、利用者様同士の些細なトラブルはありますが、皆さんに共通して言えることは「優しい」ということです。私たち職員に対し、なにかと「ありがとう」と感謝の言葉をかけてくださいます。

そんな利用者様との関係も時には親子や夫婦のようになり、職員を子供のように思って頭を撫でて褒めて下さる方もいたり、なかには他の利用者様を亡くなった旦那様と思われている方もいたりと、毎日が家族と生活しているような楽しい時間を過ごされている方もいます。当たり前ですが、毎日が違う一日であり、利用者様は怒りっぽいときもあれば優しいときもあり、時には淋しく涙するときもあります。

その時その時を大切にし、利用者様と向き合い、その大切な一日を職員同士が共有して利用者様の生活のお手伝いをさせていただいております。

＊

今、利用者様が一番楽しまれていることは「体操」です。当施設のリハビリ職員による運動・体操はもちろんのこと、テレビで放映されている午前午後の「リズム体操」やレクリエーションを多くの利用者様が楽しみにして下さってい

ます。普段、表情が硬い利用者様も体操のかけ声がかかるとその声に導かれるように体を動かし、声を出し、自然と表情も穏やかになります。

介護医療院に転換してからは、レクリエーションも豊富になり、依知川雅子先生によるエレクトーンやハープなど楽器を用いたコンサートも好評で、歌の大好きな利用者様にはたまらない時間を過ごしています。

夏祭りやかき氷大会、秋には焼き芋大会など、季節に合わせた行事もあり、少しでも楽しく、そして居心地の良い場所で過ごしていただければと思います。

最後になりましたが、利用者様がその人らしく安心・安全に生活できるよう、利用者様はもちろんのこと、職員も笑顔溢れる療養棟にしていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

３階療養棟の職員（前列左から２番目が殿内さん）

半人前でもプラスワン

洗濯　尾田 由美子

今年、三月十六日から、３階療養棟に所属、洗濯場でお世話になっている尾田由美子と申します。今回は今の職場の紹介と私自身について話していきたいと思います。

まずは、絶対的司令塔の山口さん。人を巻き込むような笑い声と、悪いことは悪いとしっかり叱ってくれる洗濯場の長女です。

次は次女の長田さん。黙々と目の前の仕事をこなし、あまりじっとしている姿を見たことがありません。私にもすごく気を遣ってくれて、甘やかしてもらっています（笑）。

それから四女の稲葉ちゃん。お人好しでまじめで良く動き、力仕事は率先してやってくれ

る気遣いの子です。たまに失敗して長女に怒られていますが、それも愛嬌で山口さんとは漫才コンビです。叱られているのですが、いつも笑いが起きています。

そして、最後に三女の私です。これがまた厄介で、難病の身体障害者です。全身性強皮症といって皮膚が硬くなってしまう病気のため健常者の6割位しか体が動きません。全身性のために内臓系も硬くなってしまうので、いろいろな所に支障が出てきてしまいます。なにせ全てが半人前なのです。

でも、こんな私を受け入れてくれた皆様に、本当に感謝です。実はこの施設で頑張ろうと思ったのは、見学に来たときに山口さんが「絶対に出来ることがあるから、一緒に頑張ろうよ！」と言ってくれたことがきっかけです。頑張ろうと言ってくれる人はたくさん居ますが、一緒に頑張ろうと言ってくれる人はそうそういません。いろいろな事がだんだん出来なくなってしまうことが増えていく中で、私でも誰かのために出来ることがあるのかと嬉し過ぎて泣いてしまったのです。本当に半人前でもプラスと思ってくれて、仲間として受け入れてもらったことがどんなに嬉しいことか、やっぱり人は支えてもらうばかりではなく、支えてあげることも出来なければ辛いものがあります。洗濯場の人達はそれをしっかり感じさせてくれるのです。

「ありがとう。尾田ちゃんが居てくれて助かったよ」と、私には最高の言葉です。半人前でもマイナスじゃなかった。プラスで考えていると思わせてくれるのです。

私も今後、誰かの背中を押してあげられるようなそんな人になっていけたらと思います。

チャンスを頂いた清水理事長、牧ケ谷事務長、勝又看護部長にも本当に感謝します。これからも洗濯場の四姉妹をどうぞよろしくお願いします。

（写真右より長田さん、山口さん、尾田さん、稲葉さん）

入職して感じたこと

看護師　山下 さとみ

私は昨年十月に入職し、1階療養棟の所属となり、もうじき一年が経とうとしています。

入職したばかりの頃、こんなに多くの認知症の方と関わるのは初めてで、驚きの連続でした。時として怒りやすく手が出てしまう方や、食事の仕方を忘れてしまう方、介護拒否も多くあり、日常生活を送ることさえ難しい方ばかりで困惑していました。しかし、そのような中にあってもスタッフの対応が素晴らしかったのです。

例えば、オムツ交換時に抵抗のある方に、落ち着ける声掛けをしながら、穏やかなタイミングを見て、素早く交換

していました。一人一人にあった方法で行っているのです。

スタッフが常に利用者様の行動を把握しているのだと感じました。観察力も高く、その日の小さな変化にも気が付き、対応していました。また、スタッフ間で情報を共有し、カンファレンスを実施し、改善に努めています。スタッフのみんなが常に利用者様のことを考えている、素晴らしい施設だと感じました。

また、人間関係も良好です。入職して間もないころ、1階療養棟のスタッフはもちろん、他療養棟のスタッフの方や、他部署の方まで気さくに声を掛けてくださり、あっという間に馴染むことができました。

入職のきっかけとなったのも、勝又看護部長からの言葉でした。私には吹奏楽部に所属している高校3年生の娘がいます。コンクールやイベントで送迎をすることが多くあります。彼女の最後の部活動の一年間をサポートしたくて、転職をしました。

面接時に部長から「しっかりやってあげて下さい」と言われ、そんなふうに言っていただけるとは思っていなかったので、とても嬉しかったです。

こんな素敵な職場で、私もスタッフの皆さんのように、利用者様のために頑張っていきたいと思います。

―職員募集―

認知症に特化した「やさしい介護」を目指しています。
わたしたちと一緒に働きませんか？

- **医師（内科・精神科）**
- **看護師（正・準）**
- **介護士**
- **総務**
- **ケースワーカー（相談員）**
- **認知症ケア研究室（ケア職員）**

就業時間：８：３０～１７：００（休憩 50 分）
休　　日：月１０日 (年間１１９日)
勤 務 地：静岡県御殿場市中畑 1932（御殿場駅より送迎バス有り）

問合せ先：0550-89-5671　事務長（牧ケ谷）
まずはお電話にてお問合せください。

医療法人社団　清陽会
富士山麓病院介護医療院
富士山麓クリニック

御殿場西高等学校 ダンス部との交流

当施設では、地域の方との交流を深めるため、様々な取り組みを行っています。

その一環として、地元、御殿場西高等学校のダンス部の皆さんをお招きし、5月3日にダンスショーを行いました。

ヒップホップの軽快なリズムや、逆立ちをして回転するブレイクダンスを間近に見て、思わず手拍子が出たり歓声が上がるなど、大変刺激を受けた利用者さんたち。若さ溢れるエネルギッシュな姿に、生きる意欲が湧いてくるようなイベントとなりました。

後日、生徒さんたちが感想を寄せてくれたのでご紹介させていただきます。

顧問　長田　真　先生

この度は御殿場西高校ダンス部を招待していただきありがとうございました。生徒含め私自身も利用者の皆様と触れ合う貴重な時間をいただくことができ感謝しております。

今回だけで終わらず、また交流できる日を楽しみにしております！

【2年】

小澤 林檎
にぎやかで楽しむことができました。

渡邉 ひなの
楽しかったです

梶 陽菜
一緒になって楽しんでくれたので良かったです。

佐々木 優奈
真剣に見ていただけて嬉しかったです。

阿部 莉央奈
感動してくださった利用者さんを見て私も泣きそうになりました。

内尾 心南
実際の介護の現場へ訪れて、ダンスで皆さんが笑顔になってくれることを知ってとても嬉しかったです!!

【3年】

新谷 優太
利用者さんも一緒に盛り上がってくれたなかで、楽しく踊ることができて良かったし、三転倒立相撲も、めっちゃ盛り上がって楽しい一日になりました。

中島 桜
皆さんの前で踊ることができてよかったです。

江畑 結奈
また行きたいです。

真庭 春果
めっちゃ楽しかった。

勝間田 夏香
楽しかった。

西室 美玖
利用者さんたちが一緒に楽しんでくださったので私にとっても良い時間になりました。

坂上 心美
踊る機会をいただけて良かったです。

御殿場西高校ダンス部の皆さん、ありがとうございました。また是非、踊りに来てください！

レクリエーションフォトギャラリー

笑いの部屋

夏祭り

ボウリング大会

かき氷大会

ピアノ

純喫茶

お気楽歴史エッセイ②

あなたの名字はいつから？

今では誰にも名字（姓・氏）があって当たり前ですよね。

ところが江戸時代には「苗（名）字帯刀は武士の特権」で、武士以外では公家、学者、医者、神官などが名字を名乗っていたくらい、総計しても人口の一割にも満たないでしょう。

長い間、庶民には名字がなかったと言われてきました。しかし一九五〇年代からの研究で、公的に名乗ることは許されないが元々庶民にも名字はあったとわかりました。墓石に刻み、私的な文書に名字が使われている例が多数見つかったからです。

とは言っても、農民は三百年近くもほとんど名字なしの生活をしてきたのですから、自分の家の名字を忘れてしまったとしても仕方がありません。

豪農や豪商の中には藩の財政を助けた功績で苗字帯刀を許された家もありますが、大部分は名字なし、ただの権兵衛や田吾作で暮らしてきたのです。

幕府が倒れ新政府が誕生して間もない一八七〇（明治三）年、「四民平等」の掛け声の下、「平民苗字許可令」という布告が出されました。今後は百姓や職人、商人も名字を名乗ってよいというのです。しかし名字の必要を感じていない庶民にとっては「許す」と言われてもそうそう届け出る人はいません。

そこで政府は五年後の明治八年に「平民苗字必称義務令」を出します。サア大変、日本人は全員名字を付けなければならなくなりました。先祖伝来の名字を持っている家はごくわずかですから、ほとんどは新たに考えなければなりません。

自分で考えられない場合には、お坊さんや神主、地域の有力者に名字を付けてもらったという人が多かったようです。

石井研堂著『明治事物起原』には「平民苗字ある始め」という項目があり、慶応元年生まれの著者が十一歳の明治八年に、町の役人だった父親が次々に名字を付けてやったそうです。

種切れになったので青柳（あおやなぎ）、喜撰、鷹爪（たかのつめ）、宇治と茶の銘柄を付けたと書いています。青柳、鷹爪というお茶は知りませんでした。喜撰茶の中でも特に上質なものを上喜撰と言いましたが、ペリーが黒船を率いてやってきた時の幕府のあわてぶりを「泰平の眠りを覚ます上喜撰（蒸気船）たった四杯で夜も眠れず」と皮肉った狂歌ができました。

徳川四天王の酒井、榊原、井伊、本多などと付けてやったらその内の一人が恐る恐る「かような勿体ない名字を付けましても、お上から御咎めはないでしょうか」と言うので、父親は「必ず心配なきよしを諭し」て安心させたとあります。

なぜ新政府は国民に名字を強制したのでしょうか。国民が望んだわけでもないのに全員に名字を強制したのは、名字がないと困るのは政府の方だったからです。戸籍なしでは確実な税の徴収ができないし、徴兵制の軍隊も無理でしょう。名簿が名前だけで名字がなかったら点呼の際にどんなことになるか。

お上のそんなねらいを見抜いたか、村中が二つか三つの同姓の家ばかりにしたり、家の職業をそのまま名字にしたり。富山県射水市新湊地区には魚、釣、網、海老、米、酢、飴、菓子、風呂、瓦、大工、紺などの珍姓さんがいっぱい、地区で釣さんが一〇〇軒もあるようです。

「判じ物」みたいな名字を付けたのも、お上への抵抗かもしれません。群馬県には「八月一日」という家があり「ほづみ」と読ませます。穂を摘むという農事暦からと思われます。

クイズです。次の名字は何と読むでしょう。答えはそれぞれひらがな四文字で。「一」「九」「四月一日」「小鳥遊」。

（内藤　真治）

山麓コラム

火を楽しむ

地域連携室（介護支援専門員）
石田　洋一

土日・祝日はどこのキャンプ場も予約でいっぱい状態だった。しかし、やっとキャンプブームも一段落したようだ。

キャンプといえば『火』。人類と火との関わりは今から50万年以上前になるそうだ。

最初は他の野生動物と同じように、火は恐怖の対象で、火山の噴火や山火事、落雷などで偶然発生した『火』を使い始めた人類がいたそうだ。

『火』を操れるようになって、夜を灯す光・身体を温めるための熱、そして調理をすることができて、安全な食を得て寿命を延ばすことができた。今ではスイッチを押すだけで調理が出来る。なんて便利なのだろう。しかし、便利＝幸せではない。

我が家もオール電化で、直接火に触れることが少なくなっているが、休日は家に居て『火にふれる』ことが楽しくてしょうがない。初めて『火』に出会った人類のことを想像してしまう……

江戸時代に使われていた言葉と、お釜と、カセットガスコンロでご飯を炊く。

超ウキウキする。

「はじめちょろちょろ中ぱっぱ、じゅうじゅう吹いたら火をひいて、ひと握りのワラ燃やし、赤子泣いてもふた取るな」

蒸気の様子や音や匂いに注意しながらじっくり炊いたご飯は格別に美味しい。米の粒が立つ！ってこのことなのかな？　便利な世の中だからこそ味わえる贅沢だ。

そして、災害で電気が使えなくなった時のためにも準備しておこう。これからも面倒くさいことをたくさん楽しんでいきたいと思う。

編集後記

観測史上で最も暑い夏だったようです。昨年の暑さも更新したそうで、もう「異常気象」ではないのかもしれません。世界各地から洪水や干ばつのニュースが伝えられ、気候危機がいよいよ深刻になっていると感じています。

地球温暖化による人類の危機を前にして、目先の利益を追い求めたり、軍事力の強化を競い合っていることが許される時代なのでしょうか。

今号もそれぞれの部署で誠実に仕事に励んでいる方々の原稿が数多く寄せられました。社会をささえているのは、こういう人たちの働きなのだと痛感しています。

11ページ最後のクイズにお答えください。正解者多数の場合、抽選で三名に粗品を進呈します。（内藤　真治）

『富士山麓病院介護医療院新聞』第174号　2024年9月30日発行　発行人＝清水允熙
編集人＝内藤真治　発行所＝富士山麓病院介護医療院　富士山麓クリニック
（〒412-0006　御殿場市中畑1932番地　☎0550-89-5671）　印刷所＝エス デザインズ